

■ 河合塾テキスト「地理総合、地理探究（共通テスト対応）（2025 完成シリーズ）」演習問題 解説 ■

【第28講】

解答番号	正解	解説	重要度
1	②	②：正答。河川の勾配ア：長江。河川の勾配イ：アマゾン川。図1より、河口から3000km上流では、長江は山岳地帯、アマゾン川は平野である。月平均流量A：アマゾン川。年間を通して降水量が非常に多い熱帯雨林気候下を流れ、流域面積も世界最大であるため、年中流量が非常に多い。月平均流量B：長江。上流は降水量が少ないツンドラ気候下で、中下流域も温帯気候であり、アマゾン川流域よりも降水量は少なく、流量も少ない。	★★★
2	③	③：正答。牛乳：キ。乳牛などを飼育する酪農は、製品の鮮度を要するため、冷涼な気候の地域や大消費地とその周辺で行われる傾向が強い。小麦：カ。冷涼少雨の気候に適する。とくにブラジルでは南部の温帯地域に限定される。バナナ：ク。熱帯性の果実であるため、とくに中国では南部の熱帯・亜熱帯地域に限定される。	★★
3	③	③：正答。食料品・飲料：ス。商品作物の生産がさかんで、その加工品の製造も多いブラジルで最も割合が高い。機械類：サ。安価で豊富な労働力を背景に、労働集約型の組み立て産業である機械工業が発達する中国で最も割合が高い。石油製品：シ。世界有数の原油産出国であるロシアで最も割合が高い。繊維品：セ。安価で豊富な労働力を背景に、労働集約型の繊維工業が発達するインドや中国での割合が高い。軽工業製品であるため、生産額は機械類と比べて小さくなる。	★★★
4	②	② 誤文。Bのマラッカ海峡は大陸棚にあたり水深が浅い。海洋プレートが大陸プレートに沈み込む狭まる境界では、一般に海洋側から海溝、弧状列島、大陸棚、大陸の順に地形が並ぶ。ここでは、南側からスンダ海溝、スンダ列島、南シナ海、ユーラシア大陸の順となっている。① 正文。Aはメコン川で、複数の国土を流れる国際河川であり、下流部には三角州（デルタ）が形成されている。③ 正文。Cはジャワ島で、アルプス＝ヒマラヤ造山帯の新期造山帯に属し、メラピ山などの火山が多く分布している。④ 正文。Dはカリマンタン島で、赤道直下に位置するため熱帯雨林に覆われ海岸部にはマングローブが分布する。	★★★
5	①	① ベトナム。社会主義体制を維持しながら、一定の範囲内で市場経済の導入するドイモイ政策が実施された。これによって外国資本が進出し繊維工業や機械工業が発達した。② ミャンマー。1997年にASEANに加盟したが、政治の民主化などが進んでいないため、現状では工業化は停滞している。③ タイ。日本から電気機械工業や自動車工業などが数多く進出している。④ シンガポール。ジュロン工業地域の建設によって工業化が進行した。近年は金融業や先端技術産業も発展している。	★★
6	④	④：正解。ア：アフリカ東岸のケニアからスリランカへ向かう際に、追い風を受けることができる原因是、7月の南西季節風（モンスーン）と考えられる。イ：東アフリカ地域と南アジア地域の経済力を比較すれば、インドが含まれる南アジア地域のほうが大きく、貨物量は南アジア地域のほうが多く東アジア地域のほうが少ないと考えられる。	★★★

7	①	①：正解。コロンボ：力。熱帯雨林（Af）気候に属し、最寒月平均気温が18℃以上となり年中高温で、降水量が多い。ナイロビ：キ。赤道直下に位置するが、標高が高いため、同緯度の低地よりも気温が低く年較差が小さい。また、気温が低いため、降水量も同緯度の低地よりも少ない。ロンドン：ク。西岸海洋性（Cfb）気候に属し、最寒月平均気温が-3℃以上、18℃未満、最暖月平均気温が22℃未満で、年中平均した降水がみられる。	★★
8	③	ケニア、スリランカともに茶の生産と輸出がさかんである。年中高温多雨のスリランカは、天然ゴムの生産と輸出もさかんであるため、①、③のいずれかに該当する。近年、スリランカでは、ほかの南アジア諸国と同様に、安価で豊富な労働力を背景に衣料品の生産がさかんとなっており、③が2013年、残る①が1976年となる。また、コーヒーの原産地のエチオピア高原に近いケニアは、コーヒーの生産と輸出もさかんであるため、②、④のいずれかに該当する。近年、ケニアでは、気温の年較差の小さい気候を利用したヨーロッパ向けの花卉の生産と輸出がさかんとなっており、②が2013年、残る④が1976年となる。	★★
9	③	③：正答。A：緑茶。B：紅茶。イギリスでは緑茶より紅茶のほうが必要が高いため、輸入量が多いBが紅茶、少ないAが緑茶と考えられる。サ：消費者向け少量包装。シ：加工・流通業者向け大量包装。イギリスでは、多国籍企業などが原料の茶を輸入し、国内や輸出向けに加工して販売している。輸入する際には、業者向けのための大量包装の場合が多く、輸出する際には、消費者向けのための少量包装の場合が多い。	★★
10	③	③：誤文。シアトル、トゥールーズを示しており、航空機産業が発達した工業地域である。シアトルにはボーイング社、トゥールーズにはエアバス社の大型航空機の組立て工場が立地する。①：正文。アはピッツバーグ、バーミンガム、エッセン・ドルトムントなどを示しており、石炭の産出を背景とした鉄鋼業が発達した工業地域である。②：正文。イはヒューストン、ミドルズブラを示しており、原油の産出を背景とした石油化学工業が発達した工業地域である。④：正文。エはサンノゼ、ボストン、ロンドン、パリを示しており、大学や研究機関の立地を背景としたICT関連などの先端技術産業が発達した工業地域である。	★★★
11	⑤	⑤：正答。K：ク。b付近は酪農地帯、c付近は春小麦地帯、d付近では酪農のほか、地中海性気候下で果樹栽培も行われれる。L：力。b付近はコーンベルト、c付近では肉牛肥育や灌漑による冬小麦の栽培、d付近では地中海性気候下で果樹栽培が行われれる。M：キ。b付近はコーンベルト、c付近は綿花地帯、d付近では沖積平野でイネが栽培されるほか、温暖な気候下でサトウキビなどの熱帯・亜熱帯性作物も栽培される。	★★
12	①	①：チリのみにあてはまる。チリの北部には、寒流のペルー海流による海岸砂漠であるアタカマ砂漠が分布する。ニュージーランドは全域が西岸海洋性（Cfb）気候となっている。	★★★
13	②	②：ニュージーランドのみにあてはまる。全域が偏西風の影響を受ける西岸海洋性気候で年中湿潤な地域といえる。首都ウェリントンも同様である。チリの首都サンティアゴは、ステップ（BS）気候から地中海性（Cs）気候が分布するため、年中湿潤ではない。③：両国にあてはまる。両国ともに、南部に山岳氷河や氷河地形がみられる。④：両国にあてはまる。両国ともに、新期造山帯の環太平洋造山帯に位置し、火山活動や地震活動の活発な地域である。	★★★

14	②	②：正答。チリ：サ。銅鉱をはじめ、銀鉱やリチウム鉱、モリブデン鉱などのレアメタルの産出と輸出が多い。ニュージーランド：シ。鉱産資源は乏しい。西ヨーロッパ：ヤ。チリ、ニュージーランドとともに、1985年と2018年を比べると、割合が大きく低下している。かつてはそれぞれの旧宗主国であるスペインやイギリスなどをはじめとした西ヨーロッパ諸国との貿易関係が強かったが、EUが結成されてからは相対的な貿易関係は大きく低下した。北アメリカ：X。1985年と2018年を比べると、東アジアの割合が大幅に上昇したことや相対的に割合は低下しているが、距離的に近いこともあり貿易関係は活発であるといえる。	★★★
15	③	③：正文。沼ノ端駅のそばを通る国道を北西に進むと、湿地がみられる。①：誤文。南側からフェリーで苫小牧港に近づくと、樽前山は進行方向に向かって左側に見える。また、市役所や苫小牧駅の周辺に市街地が広がっていると考えられ、市街地もどちらかといえば左側に見えると推定できる。②：誤文。弁天沼は見えるが、ウトナイ湖は路線からかなり離れているため、水面は見えないと推定できる。④：誤文。苫小牧中央インターチェンジから高速道路を西に進むと、左側に市街地、右側に樽前山が見える。	★★
16	③	③：正答。ア：沿岸流。海岸に並行して流れる沿岸流によって、土砂が供給され堆積するため、河川が河口付近で屈曲している。イ：冬季。図3より、苫小牧市は太平洋側に位置していることがわかり、冬季の北西季節風の風下側にあたるため、冬季は降水量が少なく河川の流量も減少する。ウ：大きく。図2より、1909年から時代を経るごとに河口の位置が西側に移動していることがよみ取れ、河川流量が減少する冬季には、河川の侵食作用を沿岸流の運搬・堆積作用が上回り、河口付近が土砂でふさがることが要因であると考えられる。	★★
17	④	④：誤り。図5より、フェリーを除く国内の移出入と海外との輸出入を比較すると、苫小牧港は、海外との貿易（輸出入）の占める割合が室蘭港よりも低いことがよみ取れる。①：正しい。図3より、室蘭港は内湾に位置するため、波が穏やかな天然の良港であることがよみ取れる。②：正しい。図3より、苫小牧港は、室蘭港と比べて札幌市や北海道の中央部に近いことがよみ取れる。③：正しい。図3より、苫小牧港の周辺は平坦な地形であることがよみ取れる。	★★
18	⑥	⑥：正答。食料品：C。北海道の製造品出荷額に占める苫小牧市の割合、苫小牧市の製造品出荷額に占める割合ともに低く、軽工業で出荷額の金額が小さく、苫小牧市は農業や水産業の基盤も小さいことから、食品産業であると考えられる。石油製品・石炭製品：B。問3の会話文や図4より、1963年に苫小牧港は大規模な掘り込み式の港湾として整備され、1970年代に入り海上貨物取扱量が増加したことがよみ取れ、輸入原料を利用した業種と推測できる。また、表1からは、1971年から2018年にかけて、北海道の製造品出荷額に占める苫小牧市の割合、苫小牧市の製造品出荷額に占める割合ともに増加しており、苫小牧市で高度経済成長期以降に急速に発展した業種と考えられる。よって、石油・石炭化学産業である。パルプ・紙・紙加工品：A。1971年の時点で、すでに北海道の製造品出荷額に占める苫小牧市の割合、苫小牧市の製造品出荷額に占める割合ともに高く、北海道の豊富できれいな用水と針葉樹の木材資源を背景に、古くから発達したパルプ・紙産業であると考えられる。	★

19	③	<p>③：正答。地区 d : キ。工場従業員とその家族向けの社員用住宅地区であるため、40 歳前後とその子どもの世代の割合が突出して多い。地区 e : 力。社員用住宅とは異なり、居住者の年齢構成の偏りが小さい。X : 1995 年。Y : 2015 年。郊外の戸建て住宅（力）は、社員用住宅とは異なり、居住者の転入や転出は比較的少ないため、X 年（1995 年）に人口割合が高かった生産年齢層が、Y 年（2015 年）には経年によりそのまま高齢化し、60 歳前後の割合が高まったと考えられる。</p>	★★★
20	②	<p>②：正答。E : サ。図 7 より、市役所の西側は人口が減少または変化なしの地域が広がっていることが読み取れ、空き店舗や空き地が増えたり、街に来る人が減少したりするなどの問題がみられると考えられる。F : チ。地方都市の中心市街地衰退の解決策として、大幅な人口増加が見込めないため、大型のショッピングセンターの開発や大規模なマンションの建設は適切とはいえない。オンドマンドバスの運行などによって、公共交通の利便性を高めるなどの解決策のほうが現実的であるといえる。</p>	★★